

令和4年度 「医学セミナー（医師の学校訪問）」

【日 時】 11月19日（土） 13:30～15:30

【場 所】 本校西教室

【参加者】 本校生8名（1年生5名、2年生3名）

【講 師】 小曾根 早知子（おぞね さちこ）先生

（筑波大学附属病院 総合診療科）



＜筑波大学医学群医学類の医学生＞

福元 崇人 さん（6年次 本校卒業生）

塚本 千代之介 さん（2年次）

穂積 裕太 さん（2年次）

今年度も「高校生のための医学セミナー（医師の学校訪問）」が実施されました。この事業は、茨城県教育委員会と筑波大学との連携により、医学を志す高校生を支援しようとの目的で実施されており、8名の生徒が参加しました。久しぶりの対面形式での実施です。

講師は 小曾根 早知子 先生（筑波大学附属病院 総合診療科）。そしてサポートとして筑波大学医学群医学類所属の大学生3名（医学6年 福元 崇人 さん、医学2年 塚本 千代之介 さん、穂積 裕太 さん）にも参加していただきました。福元さんは本校OBであり、6年間欠かさず参加してくださっています（ありがとうございます）！ ただし今年度が最終年次であり、卒業後は県内の医療機関への就職が決まっています。

まずは小曾根先生からパワーポイントを用いたのプレゼンテーションをいただきました。医師を志したきっかけ、ご家族との生活、そして総合診療科を選択された大きな理由である利根町国保診療所でのご経験と院長の中澤医師との出会いなどについて、ソフトな語り口でわかりやすく話してくださいました。



特に印象的だったのは、お話の中で再三にわたって登場した次のようなフレーズでした。
「私は自分で話をするのが苦手だけど、他の人の話を聴くのが好きだし、楽しいんです。」
（注：実際には小曾根先生のお話ぶりはたいへん明瞭でわかりやすく、決してそんなことはありません。）

「だから、患者さんの話を聴くのが好きなんです」、「患者さんと話すのが楽しい」

医師として患者と接することには、私たちの想像を絶するほどの困難やストレスがあるはずです。それだけに、涼しげな表情でそのように話される小曾根先生の姿には驚きを禁じえませんでした。それと同時に、このようにヒューマンな温かさに溢れるお人柄と卓越したコミュニケーション力をお持ちだからこそ、地域医療という分野で力を存分に発揮されているのだらうな…と納得させられました。

「こういうお医者さんがいるんだ…!」という新鮮な、しかも嬉しい印象を参加した生徒たちも持ったはずです。

また、後半は3名の学生さんに小曾根先生も加わり、生徒とのグループワークを行いました。皆さん生徒からの質問に気さくに答えてくださり、また時には積極的に生徒たちに水を向けて対話をリードしてくださいました。各グループとも話が盛り上がり、あっという間に終了時刻が来てしまうといった印象でした。生徒たちはまたとない貴重な機会を得ることができたはずです。







コロナ禍で医療体制の逼迫が叫ばれるなか、こうして貴重な機会をいただいたことに対し、ご協力いただいた方々に心からの感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。

⇒ 生徒のアンケートより

◇ 今回の事業への参加は、あなたにとって意義がありましたか？

- | | |
|-----------------|--------|
| ・ 大いに意義があった | … 100% |
| ・ 意義があった | … 0% |
| ・ どちらとも言えない | … 0% |
| ・ あまり意義を見出せなかった | … 0% |
| ・ 意義を見出せなかった | … 0% |



◇ 今回の事業に参加した「感想」を記してください（小曽根先生と学生さんたちへの質問がある場合は、それも併記してください）。

- 先輩がたの体験談や勉強の仕方などのアドバイスを聞けて、有意義に過ごせた。
- 実際に医学の道を進んできた、進んでいる人たちの貴重な意見や話を聞くことができ、医学への関心がさらに深まりました
- 先生が研修で行った解剖などの話を聞いておもしろいなと思いました。医師以外の医療関係の仕事も教えてくださって、より興味を持ちました。大学でどんなことを行っているのか詳しく聞けて、とても楽しかったです。
- 医学生の方々に多くのことを聞き、これからどのような勉強をすればいいのか、少しわかるきっかけになりましたし、また実際に医師からの講話をいただいたことで、より医療への関心が深まり、非常にいい経験になりました。
- 先日はお忙しい中、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。
- 探究活動や学習についてのアドバイスを沢山いただいて非常に勉強になりました。